

問1 1873年に明治政府が発した、国民の義務に関する法令の内容とその影響について述べた文として、正しいものを選びなさい。

(2015年 岐阜公立入試 類似)

- 満20歳以上の男子に兵役の義務を課す徴兵令が出されたが、農民は働き手を失うことなどを理由に各地で反対一揆を起こした
- 全ての国民に小学校教育を受けさせる学制が発布されたが、授業料の負担が軽かったため農民はこれを歓迎し一揆は沈静化した
- 土地の所有者に地価の3%を現金で納めさせる地租改正が行われ、これにより農民の負担が激減したため一揆の件数は減少した
- 武士に代わって農民が国防を担うことを名誉とし、自発的に軍隊へ入隊する者が続出したため一揆は発生しなかった

問2 井原西鶴や近松門左衛門が活躍した時代は、当時の元号から「元禄文化」と呼ばれます。しかし、明治時代になると元号の制度が大きく変わり、現代まで続く運用のルールが定められました。明治以降の元号の決め方について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。

(2021年 岐阜公立入試 類似)

- 天皇一人の在位期間中、元号を一つに限定するようになった
- 優れた功績を挙げた政治家の「姓名」から元号を選ぶようになった
- 朝廷が授ける「官位」の名称をそのまま元号として用いるようになった
- 亡くなった天皇を称える「諡（おくりな）」を、そのまま存命中の元号とした

問3 文明開化の時期に見られた、人々の生活の変化に関する説明として最も適切なものはどれですか。

(2026年 栃木公立入試 類似)

- 太陽暦（新暦）が採用され、一週間を7日とする制度が始まった。
- 伝統的な武家屋敷が推奨され、都市部で日本建築が急増した。
- 鎖国体制を維持するため、外国語の学習が厳しく制限された。
- 庶民の間で、丁髷（ちよんまげ）を結うことが改めて義務付けられた。

問4 明治政府が発足した当初、江戸を「東京」と改称するとともに、新政府が目指す政治の基本方針として「万機公論に決すべし」などの5か条からなる宣言を出しました。この宣言の名称として正しいものを選びなさい。

(2024年 鹿児島公立入試 類似)

- 五箇条の御誓文
- 十七条の憲法
- 大日本帝国憲法
- 教育勅語

問5 明治政府が文明開化を推進するなかで、江戸時代まで手紙や荷物を運んでいた飛脚に代わり、全国どこでも均一の料金で信書を送ることができるよう整備した近代的な通信制度を何といいますか。

(2019年 奈良公立入試 類似)

- 郵便制度
- 電話制度
- 電信網
- 飛脚制度

問6 明治政府が「国民皆兵」を掲げて1873年に発布した法令について、その内容を説明したものとして最も適切なものはどれですか。

(2018年 歴史公立入試 類似)

- 満20歳以上の男子に対し、士族や平民の区別なく兵役の義務を課した。
- 士族のみを対象として近代的な軍事訓練を行い、特権的な地位を維持させた。
- 土地の所有者に地券を交付し、収穫量ではなく地価に基づいて現金を納めさせた。
- 武士の特権であった帯刀を禁止し、警察官や軍人以外が刀を持つことを禁じた。

問7 1873年に徴兵令が出されたのと同年に、明治政府が安定した財源を確保するために実施した土地と税制に関する改革を何といいますか。

(2017年 高知公立入試 類似)

- 地租改正
- 版籍奉還
- 廃藩置県
- 地目変換

問8 明治時代初期の香川県西部で起きた「西讃農民騒動」などの一揆では、新政府が進めた改革への不満が爆発しました。この騒動の背景の一つとなった、国民に兵役の義務を課した制度の説明として最も適切なものはどれですか。

(2016年 香川公立入試 類似)

- 四民平等の考えに基づき、身分に関わらず国民から兵を募る近代的な軍事組織の構築を目指した制度
- 土地の所有者に地価の3%を現金で納めさせることで、政府の財政を安定させることを目指した制度
- 満6歳以上の男女がすべて小学校で教育を受けられるようにし、国民の知識水準を高めることを目指した制度
- 旧武士の特権であった帯刀を禁止することで、特権階級をなくし社会の近代化を推し進めた制度

問9 明治維新前後の兵制の変化を整理した内容において、1873年（明治6年）の徴兵令に関する記述として正しいものはどれか。

(2018年 奈良公立入試 類似)

- 満二十歳以上の男子に兵役の義務を課し、国民全体の義務として軍務を定めた。
- 廃刀令と同時に実施され、武士が持つ帯刀の権利を軍人にのみ限定した。
- 家禄を返還した士族に対して、その補償として優先的に軍職へ就くことを認めた。
- 六歳以上の男女を学校に通わせる学制と同時に、女子に対しても軍務の義務を課した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 満20歳以上の男子に兵役の義務を課す徴兵令が出されたが、農民は働き手を失うことなどを理由に各地で反対一揆を起こした	明治政府は「国民皆兵」を掲げて徴兵令を公布し、身分に関わらず軍事的な役割を担わせようとした。しかし、それまで軍役を免除されていた農民にとっては、労働力の喪失という経済的負担が極めて大きく、これに反対する「血税一揆」が全国で多発しました。当時の統計資料を見ても、徴兵令が施行された1873年頃に農民一揆の件数が急増していることが確認できます。これは、地租改正による負担への不満などととも、新政府による急進的な改革が農民の生活を圧迫したことを示しています。
問2	答え 1 天皇一人の在位期間中、元号を一つに限定するようになった	江戸時代までの日本では、大きな火災や飢饉などの厄払いや、おめでたい出来事を理由に、天皇が交代しなくても元号を変えることが一般的でした。明治政府はこの慣習を改め、明治という元号を天皇の生涯にわたって継続させる「一世一元の制」を採用しました。これにより、元号が単なる年数のカウントではなく、特定の天皇の治世を示す象徴としての意味を強めることになりました。
問3	答え 1 太陽暦（新暦）が採用され、一週間を7日とする制度が始まった。	1872年（明治5年）にそれまでの太陰太陽暦から太陽暦に切り替えられ、現在と同じカレンダーの形式になりました。このほか、男性が髪を短く切る「断髪（だんぱつ）」や、洋服の着用、食生活における肉食の普及など、生活のあらゆる面で欧米化が進みました。
問4	答え 1 五箇条の御誓文	1868年に発布されたこの宣言は、天皇が神に誓う形式で、新しい政治のあり方を示したものです。広く会議を開いて意見を求めることや、これまでの悪い習慣を捨てて国際的な道に従うことなどが盛り込まれており、明治維新における近代化の出発点となりました。
問5	答え 1 郵便制度	明治時代、政府は近代国家の基盤を築くために全国的な通信網の整備を行いました。1871年（明治4年）に導入されたこの制度は、それまでの飛脚に代わる組織的な仕組みであり、切手を用いた前払いの均一料金制を特徴としています。
問6	答え 1 満20歳以上の男子に対し、士族や平民の区別なく兵役の義務を課した。	明治政府は、強大な外国勢力に対抗できる近代的な国家をつくるため、1873年に徴兵令を発布しました。これにより、江戸時代まで軍事に従事していた士族だけでなく、平民も含めたすべての国民に兵役の義務が課されることとなりました。これは四民平等の精神に基づく改革の一部でもあります。
問7	答え 1 地租改正	明治政府は、それまで豊凶によって変動していた税収を安定させる必要がありました。そこで、土地の所有者に地券を発行して所有権を認めるとともに、地価の3パーセントを地租として納めさせる改革を行いました。この改革により、政府は収穫量に左右されない安定した現金収入を得られるようになりました。
問8	答え 1 四民平等の考えに基づき、身分に関わらず国民から兵を募る近代的な軍事組織の構築を目指した制度	1873年に明治政府が出した徴兵令は、四民平等に基づき、武士の特権を廃止して国民全体から兵士を確保しようとするものでした。しかし、当時の農民にとっては労働力の喪失につながる重大な負担であり、さらに法令内にあった「血税」という言葉を「本当の血を抜かれる」と誤解したことなども重なり、西讃農民騒動のような激しい反対運動（血税一揆）が全国で発生しました。
問9	答え 1 満二十歳以上の男子に兵役の義務を課し、国民全体の義務として軍務を定めた。	徴兵令は、満二十歳に達したすべての男子に兵役を義務づける制度です。当初は戸主や学生などに免除規定がありましたが、原則として国民全員が国家を支える兵士となる「国民皆兵」の原則を確立しました。これは、秩禄処分（家禄の廃止）などと並び、武士という身分の経済的・特権的地位を解消していく改革の一環でもありました。